

《入浴以外で出来る事》

● シーツ交換

多くの方が寝たきりの状態でありシーツ交換の機会があまり無い為、入浴中ベッドシーツの交換を行うことが出来る。

● 爪切り

入浴後は爪が柔らかく切りやすい為、当社看護師による爪切りが可能。

● 体重測定

入浴前にお客様の体重を測定することが可能。(体重計はご用意いただく必要有)

● 皮膚観察・軟膏塗布

皮膚トラブルを早期に察知し、ご用意してある軟膏で悪化を防止する。

● 脚や腕のマッサージ

浮腫みや拘縮が強い方に対してリンパマッサージや足つぼマッサージを行う。

《弊社でのニーズに合わせた対応方法》

● やわらかタンカ

皮膚状況が悪く、通常のタンカでは剥離等のトラブルになり兼ねないお客様に対し、生地の柔らかく皮膚に優しいタンカを使用する。

● 重タンカ

体格の大きな方に対し、通常の抱え(スタッフ二人での抱え上げ)では浴槽への移動が難しい場合に、スタッフ3名でタンカごと抱え上げ安全に移動して頂く方法。

● タオル抱え

お身体を水平に保ったまま安全に移動ができる方法。首や手足がだらんとなりやすい方や、お身体の痛みが強い方に対し、バスタオルでお身体を包み込むような形からやさしく抱え上げる。

● 車椅子からの移動

ベッドではなく車椅子で過されているお客様には、車椅子に座っている状態から、脇と脚を同時に抱え、安全な入浴を促す。

● 立位が取れる方

立位が取れる方に対しては、浴槽の淵に座って頂き、その状態からスタッフ2名で抱えて入浴することができる。

● 足や腕の怪我等

足先が壊死している、腕に怪我が有る等お湯に浸けられない部位がある場合は、お湯に浸からないようにビート版等の付属器具で保護しながらの入浴が可能。

● 座位入浴

お身体の痛み等で座ったままの姿勢しかとれない場合は、その体勢のまま移動し入浴することが出来る。入浴中は常にスタッフが支えた状態となる。

《入浴の三大効果について》

1. 温熱効果

入浴で皮膚が温められると、皮下の血管と血液が温められる。その結果、血管が拡張して血流量が増加するとともに、温かい血液が全身を温めることになる。手足だけの部分浴によっても全身を温める効果がある。温熱作用の一つとして筋肉の血行を促し、動きを容易にする効果がある。微温浴より高い温浴の場合には交感神経を刺激し、心拍数が増え、血圧は上昇。微温浴では副交感神経を刺激し、精神の緊張をほぐし、心拍数および血圧の変化も少なくなる。

2. 静水圧効果

半身浴では、下半身に静水圧がかかるため心臓への環流量が増し、心臓から押し出される心拍出量が増加。結果、全身の血液循環が促進され、筋肉にたまった疲労物質(乳酸等)が排出されることで、疲労回復を早める。全身浴を行うと、静水圧による腹囲の縮小で横隔膜が持ち上がる。胸囲も縮小し、心臓や肺などに大きな負担がかかるため、訪問入浴では仰臥位入浴としており、体調によって湯船への入湯の深さを考慮している。

3. 浮力・粘性効果

浮力により体が軽くなりリラックス効果が生まれる。運動機能が低下した方には、リハビリテーションとして、浮力・粘性を利用した水中運動が行われる。普段体を支えている関節や筋肉への負担や痛み等が軽減され、体を動かしやすくなる。

⇒他にもスタッフとの会話を通し笑顔をつくる、コミュニケーション効果も期待される